

Abandoned Plot

Takahisa Furuya

2026_12 / 8

～

2027 _ 2 / 28

種をまく 世界がひらく
山梨県立美術館
Yamanashi Prefectural Museum of Art

Curator's Eye

古屋崇久展 工作放棄地

主催・山梨県立美術館

2026. 12.8 [火]
〜2027. 2.28 [日]

9:00-17:00_ 観覧無料

ギャラリー・エコー _ 美術館エントランス

休館日 _
12 月 14 日（月）_21 日（月）_28 日（月）〜 2027 年 1 月 1 日（金）
4 日（月）_12 日（火）_18 日（月）_25 日（月）
2 月 1 日（月）_8 日（月）_12 日（金）_15 日（月）_22 日（月）_24 日（水）

山梨市出身の古屋崇久は、ちょっと引っかかりのある作品を発表しているアーティストである。「小さな地域の問題から社会情勢、未来への可能性など、普段気にかけなくても余裕で生きていけるでしょ！的な事柄を鯖の骨（または秋刀魚の骨）のようにノドに詰まらせるパフォーマンス、インスタレーション作品を発表している」と自らのプロフィールを書いているが、この「（魚の骨を）ノドに詰まらせる」詰まらせ具合がなかなかである。

2019 年に「東京ミッドタウンアワード」で優秀賞を受賞した作品《人工知能による顔の識別》は強烈だった。AI の爆発的な普及を目の当たりにしている 2026 年現在から振り返ると、まだ「人工知能」と呼称し、それがどんな社会的インパクトをもたらすか分かっていない時期であったことを思い出す。そこで古屋は、「人工知能」になりすまし、道行く人の顔を識別し、その顔を粘土で成形する機械を演じた。人工知能による顔の識別は可能であろうとも、それが機械の手により粘土で成形される、という物理的な現れ方に、観る者の感覚は大きく揺さぶられた。手の下に設置された大きなガラスケースの中にボトボトと粘土の塊が落とされていく異様な光景を前に、機械にこんなことができるのか、人間が中に入っているのではないか、そもそも何のためにこんな機械があるのか、鑑賞者に困惑が漂っていた。デジタル上の知能が、リアルの世界でも受肉していく予感を大きくする現在、この作品に抱いたような違和感は、もしかすると今後薄れていくのかもしれない。

私たちが常に合理的に、スピーディーに動かそうとする社会にあって、人を詰まらせる作品は、ひとつのことに留まらせ、考えさせる力を持ち得る。ただし今回は、自らの生まれた環境が抱えており、社会的にも深刻な「耕作放棄地」という問題を取り上げるため、アーティスト本人も無傷ではいられない。多くの現代アーティスト同様、古屋も、各地の芸術祭等で、さまざまな地域に入り、リサーチをし、外部からの視点で地域を読み直す作品を発表している。しかし本展では、テーマが故郷に広がる耕作放棄地であり、完全なる外部にはなり得ない。そこで古屋は、「耕作」を「工作」に変換し、地域の農業の問題をアートの次元へと引き寄せる。問題を根本的に解決するためではなく視点をズラすため、家族を取り巻く状況をより広い視点で考えるために。それはアートに可能なことを探る表現行為であり、他者とのコミュニケーションを誘う。私たち鑑賞者が普段考えることのない事柄に、ほんの少しでも触れ、ノドを詰まらせることがあれば。そんな小さな出会いの積み重ねが何らかの未来につながるとすれば、それはアートが担う可能性であり、アーティストが痛みを超えて提示したいと願うものなのだろう。本展では、そんな「小骨」に触れてみたい。

太田智子（山梨県立美術館学芸員）

【プロフィール】
古 屋 崇 久（ ふるや たかひさ ）
山梨県山梨市出身。埼玉県在住。明星大学造形芸術学部卒業後、東京都青梅市にてアトリエを構え、国内外で彫刻やパフォーマンス、インスタレーション、ワークショップという形で作品を発表している。作家活動を続けながら、2015年より東京都青梅市の福祉施設にて障がいを持つ方々と創作活動を行う。福祉と美術への興味から、2023 年にスウェーデンに渡航。帰国後、2025年から再度スウェーデンに渡航し、コミュニケーション表現としての福祉と美術に関する研究を続けている。

【主な展示】
2023 「THE TIME IS NOW Art Colony Galichnik 2022/23」/ 国立ギャラリー / 北マケドニア・スコピエ
「International PERFORMANCE FESTIVAL2023」/Gylleboverket/ スウェーデン・シムルスハムン
「清流の国ぎふ芸術祭 2023」/ 岐阜県美術館 / 岐阜・岐阜
2022 「六本木アートナイト 2022」/Tokyo Midtown Roppongi/ 東京・六本木
2019 「Tokyo Midtown Award 2019」/Tokyo Midtown Roppongi/ 東京・六本木
「個展 ストレスの形」/Over The Border/ 東京・恵比寿
2018 「アートアイランズ TOKYO 2018」/ 旧波浮小学校 / 東京・大島
2017 「第 20 回我孫子国際野外美術展」/ 国道 356 土手 / 千葉・我孫子
2017 「両面片隅一道風景 2017 中日当代芸術交流展」/53 美術館 / 中国・広東・広州
2016,17「六甲ミーツ・アート芸術散歩 2016,17」/ 六甲オルゴールミュージアム、六甲枝垂 / 兵庫・神戸
2015,17「中之条ビエンナーレ 2015,17」/ 伊勢町民家、旧肉屋 / 群馬・中之条
2014 「木津川アート 2014」/ 西谷邸跡地 / 京都・木津川

【受賞】
2023 「Art Award IN THE CUBE 2023」岩崎秀雄賞
2019 「Tokyo Midtown Award 2019」優秀賞・オーディエンス賞
2016 「六甲ミーツ・アート芸術散歩 2016」六甲ミーツ・アート大賞グランプリ

【助成】
2025 「ポーラ美術振興財団若手芸術家の在外研修助成」/ コミュニケーションに於る表現の方法
2023 「大木記念美術作家助成」/ スウェーデンに於ける美術と福祉の研究



種をまく 世界がひらく
山梨県立美術館
Yamanashi Prefectural Museum of Art



〒400-0065　山梨県甲府市貢川 1-4-27
Tel. 055-228-3322　Fax. 055-228-3324

美術館 HP

［中央自動車道より］甲府昭和インターチェンジより 10 分、双葉スマートインターチェンジ（ETC 専用）より約 10 分
［中部横断自動車道より］白根インターチェンジ（ETC 専用）より約 20 分
［JR 中央本線甲府駅より］JR 甲府駅バスターミナル（南口）1 番乗り場より、03・04 系統竜王駅経由敷島営業所、30 系統貢川団地、35 系統大草経由韮崎駅、39 系統御勅使各行きのバスで約 1 5 分「山梨県立美術館」下車。